お知らせ目次

行事等予定	497頁
総合	
日本鉄鋼協会 研究助成（2026年度助成開始）の募集について	500頁
イベント情報	
鉄鋼工学セミナー「専科」2025年度受講のご案内	501頁
ブックレビュー	506頁
訂正とお詫び	506頁
次号目次案内	507頁
会員欄（入会者・死亡退会者一覧）	507頁
2024年度事業報告・収支決算および2025年度事業計画	508頁

行事等予定

行事等の詳細は、**大会Webサイト**、**イベントカレンダーリンク先URL**をご参照ください。
 他団体主催の行事は中止や延期になっていることもありますので、主催者等にご確認願います。

太字は本会主催の行事。

	行事(開催地/詳細掲載号および頁)	主催者	問合せ・連絡先
2025年7月			
2～4日	第62回アイソトープ・放射線研究発表会(東京)	日本アイソトープ協会	学術振興部学術課 Tel. 03-5395-8081 happyokai@jrias.or.jp
3, 4日	第45回防錆防食技術発表大会(東京)	日本防錆技術協会	事務局 Tel. 03-3434-0451 jacc@jacc.or.jp
4日	2025年度粉末冶金入門講座3《オンライン開催》	粉体粉末冶金協会	Tel. 075-721-3650 info@jspm.or.jp
4日	第116回レアメタル研究会(東京およびオンライン開催 6号399頁)	東京大学生産技術研究所 岡部 徹	岡部研究室 宮崎智子 Tel. 03-5452-6314 tmiya@iis.u-tokyo.ac.jp
5日	鉄の技術と歴史研究フォーラム 第30回公開研究発表会(ハイブリッド講演会)(東京およびオンライン開催 6号397頁)	日本鉄鋼協会	フォーラム幹事 古主 泰子 dzs03530@nifty.com
6～11日	第51回鉄鋼工学セミナー(栃木 3号178頁)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
9日	「二相ステンレス鋼の溶接—溶接施工のかんどころ—」書籍発刊記念シンポジウム(東京)	日本溶接協会	業務部 山出雄介 Tel. 03-5823-6324 yusuke_yamaide@jwes.or.jp
9, 10日	材料の損傷・破壊の基礎知識とその適用《オンライン開催》	日本高圧力技術協会	Tel. 03-3516-2270 tanaka@hpij.org
10日	チュートリアル講座2025(大阪およびオンライン開催)	システム制御情報学会・計測自動制御学会	システム制御情報学会事業委員会実行委員会 Tel. 075-741-6413 tutorial@iscie.or.jp
14～8月1日	第13回対称性・群論トレーニングコース(日本語講義・英語講義)(茨城)	日本結晶学会	高エネルギー加速器研究機構 高橋良美 Tel. 029-879-6196 tyoshimi@post.kek.jp
16～18日	人とくるまのテクノロジー展2025(愛知)	自動車技術会	Tel. 03-3262-8214 tenjikai@jsae.or.jp
17, 18日	令和7年度中性子産業利用報告会(東京)	JPARCセンター、JRR-3,総合科学研究機構(CROSS)他	日本原子力研究開発機構 北垣絵梨花 Tel. 029-282-6765 kitagaki.erika@jaea.go.jp
18日	第3回AM Worldセミナー ～AMプロセスとその理解…シミュレーションと現象観察～(東京)	日本溶接協会	業務部 川崎利文 Tel. 03-5823-6324 toshifumi_kawasaki@jwes.or.jp
18日	2025年度粉末冶金入門講座4《オンライン開催》	粉体粉末冶金協会	Tel. 075-721-3650 info@jspm.or.jp
18～21日	International Workshop on Environmental Engineering 2025/環境工学総合シンポジウム2025 (IWEE2025&2025SEE)(北海道)	日本機械学会	IWEE2025 & 2025SEE 実行委員会 env-symp2025@jsme.or.jp
22～8月5日	2025年度溶接工学夏季大学(オンデマンド配信)	溶接学会	事務局 中村照美 Tel. 03-5825-4073 nakamura-t_jws@tg.rim.or.jp
24日	第97回技術セミナー「腐食を理解するための電気化学入門」(東京)	腐食防食学会	Tel. 03-3815-1161 naito-113-0033@jcorr.or.jp
24, 25日	第59回X線材料強度に関するシンポジウム(愛知)	日本材料学会	田村仁美 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
28日～8月1日	2025年度熱処理大学(東京)	日本熱処理技術協会	事務局 Tel. 03-6661-7167 https://forms.office.com/r/PTUJDCU57Q
29日	第21回学術講演会(島根)	日本保全学会	西日本支部事務局 Tel. 0774-38-3482 am21@jsm.or.jp
29, 30日	第190回塑性加工学講座(東京)	日本塑性加工学会	Tel. 03-3435-8301 jstp@jstp.or.jp
31日	腐食防食部門委員会第361回例会「多角的なアプローチによる微生物腐食研究の最前線」(大阪)	日本材料学会	増永千春 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp

	行事(開催地/詳細掲載号および頁)	主催者	問合せ・連絡先
2025年8月			
1日	評価・分析・解析部会 材料プロセスにおける物性評価と物性予測のアプローチフォーラム シンポジウム 「材料プロセスにおける物性評価と物性予測の現状と課題」(茨城およびオンライン開催)	日本鉄鋼協会	茨城大学 応用理工学野物質科学工学領域 西 剛史 tsuyoshi.nishi.75@vc.ibaraki.ac.jp
4日	鉄鋼を知ろう! 「最先端鉄鋼体験セミナー」(千葉 5号324頁 申込締切7月4日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
6日	鉄鋼を知ろう! 「最先端鉄鋼体験セミナー」(兵庫 5号324頁 申込締切7月7日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
8日	鉄鋼を知ろう! 「最先端鉄鋼体験セミナー」(福岡 5号324頁 申込締切7月8日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
6~8日	第34回日本エネルギー学会大会(宮城)	日本エネルギー学会	事務局 網沢洋二 Tel. 03-3834-6456 tsunasawa_jie1921@jie.or.jp
18日	日本鉄鋼協会第35回(2026年度助成開始)鉄鋼研究振興助成(含む石原・浅田研究助成)募集締切(本号500頁)	日本鉄鋼協会	技術企画グループ josei@isij.or.jp
18日	日本鉄鋼協会 第5回(2026年度助成開始)鉄鋼カーボンニュートラル研究助成募集締切(本号500頁)	日本鉄鋼協会	技術企画グループ cnjosei@isij.or.jp
18~20日	第266回塑性加工技術セミナー(オンライン開催)	日本塑性加工学会	Tel. 03-3435-8301 jstp@jstp.or.jp
19~20日	第1部第55回初心者のための有限要素法講習会(京都)	日本材料学会	事務局 小山亜紀 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
26~27日	第2部第55回初心者のための有限要素法講習会(兵庫)		
25日	第21回技術討論会「石油・電力の保守検査における新たな潮流と新技術」(東京)	日本非破壊検査工業会	事務局 藤田 Tel. 03-5207-5960 tecg@jandt.or.jp
25~28日	Dynamics and Design Conference 2025 (D&D2025) (沖縄)	日本機械学会	機械力学・計測制御部門 Tel. 03-4335-7613 dmc-support@jsme.or.jp
27~29日	2025年度工学教育研究講演会(京都)	日本工学教育協会、 関西工学教育協会	日本工学教育協会事務局 川上理英 Tel. 03-5442-1021 2025_jsee_conference@jsee.or.jp
28, 29日	鉄鋼工学セミナー「凝固専科」(愛知 本号501頁 申込締切8月8日)	日本鉄鋼協会	JFEスチール(株) 外石圭吾 k-toishi@jfe-steel.co.jp
29日	日本鉄鋼協会 研究会 I (2026年度開始)公募締切(本号500頁)	日本鉄鋼協会	学術企画グループ academic@isij.or.jp
29日	日本鉄鋼協会 研究会 II (2026年度開始)公募締切(本号500頁)	日本鉄鋼協会	技術企画グループ technica@isij.or.jp
31日	「ISIJ International」2026年3月特集号「Metallurgy and Mechanics of Plasticity-Induced Damage Evolution and Fracture (塑性誘起損傷・破壊の金属学と力学)」原稿募集締切(1号55頁)	日本鉄鋼協会	東北大学 金属材料研究所 准教授 小山元道 Tel. 022-215-2061 motomichi.koyama.c5@tohoku.ac.jp
2025年9月			
1, 2日	鉄鋼工学セミナー「精錬プロセス解析専科」(東京 本号501頁 申込締切8月4日)	日本鉄鋼協会	日本製鉄(株) 太田光彦 ohta.2hx.mitsuhiko@jp.nipponsteel.com
3~5日	第9回若手研究者および技術者のための高温強度講習会(兵庫)	日本材料学会	増永千春 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
4日	鉄鋼を知ろう! 「最先端鉄鋼体験セミナー」(愛知 5号324頁 申込締切8月4日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
4, 5日	鉄鋼工学セミナー「水素脆化専科」(本号502頁 申込締切8月6日) 《オンライン開催》	日本鉄鋼協会	日本製鉄(株) 大村朋彦 ohmura.en4.tomohiko@jp.nipponsteel.com
5日	第117回レアメタル研究会(東京およびオンライン開催)	東京大学生産技術研究所 岡部 徹	岡部研究室 宮智壽子 Tel. 03-5452-6314 tmiya@iis.u-tokyo.ac.jp
15~19日	先進赤外線計測技術と応用に関する国際シンポジウム(AITA 25)(兵庫)	日本非破壊検査協会	AITA2025係 Tel. 03-5609-4011 aita2025@jsndi.or.jp
16~18日	日本実験力学学会2025年度年次講演会(滋賀)	日本実験力学学会	事務局 西朗子 Tel. 096-342-2702 office@jsem.jp
17~19日	INCHEM TOKYO 2025(東京)	化学工学会、 日本能率協会	日本能率協会産業振興センター 清宮 修 Tel. 03-3434-1988 INCHEM@jma.or.jp
17~19日	第190回秋季講演大会(北海道 5号319頁)	日本鉄鋼協会	学術企画グループ Tel. 03-3669-5932 academic@isij.or.jp
23~26日	2025年度 修士学生向け「鉄鋼工学概論セミナー」(北海道 5号325頁)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
24日	第76回塑性加工連合講演会(茨城)	日本塑性加工学会	瀧辺淳子 Tel. 03-3435-8301 fuchibe@jstp.or.jp
25, 26日	鉄鋼工学セミナー「製鋼熱力学専科」(京都 本号503頁 申込締切8月25日)	日本鉄鋼協会	JFEスチール(株) 吉田裕典 hi-yoshida@jfe-steel.co.jp
26日	産学連携と人材育成に関するシンポジウム(東京およびオンライン開催)	東京大学 生産技術研究所	岡部研究室 池田 貴 Tel. 03-5452-6314 t-ikeda@iis.u-tokyo.ac.jp

	行事(開催地/詳細掲載号および頁)	主催者	問合せ・連絡先
30日	「鉄と鋼」第112巻2026年4月特集号「凝固における偏析および欠陥のサイエンス」原稿募集締切(4号239頁)	日本鉄鋼協会	東北大学大学院工学研究科 教授 及川勝成 Tel. 022-7959-7345 k-oikawa@material.ac.jp
30～ 10月1日	鉄鋼工学セミナー「強化機構専科」(福岡 本号504頁 申込締切8月29日)	日本鉄鋼協会	日本製鉄(株) 弘中 諭 hironaka.r28.satoshi@jp.nipponsteel.com
2025年10月			
6,7日	第10回フラクトグラフィ講習会(京都)	日本材料学会	増永千春 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
6～9日	第11回材料WEEK(京都)	日本材料学会	小山亜紀 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
7,8日	第22回破壊力学シンポジウム(山口)	日本材料学会	増永千春 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
8,9日	第46回初心者のための疲労設計講習会(京都)	日本材料学会	増永千春 Tel. 075-761-5321 jimu@office.jsms.jp
8,9日	第53回日本ガスタービン学会定期講演会(新潟)	日本ガスタービン学会	事務局 Tel. 03-3365-0095 gtsj-office@gtsj.or.jp
8～10日	第46回日本熱物性シンポジウム(佐賀)	日本熱物性学会	事務局 白樫了 Tel. 03-5452-6218 jstp@iis.u-tokyo.ac.jp
14日	標準化と品質管理全国大会2025(東京)	日本規格協会	標準化と品質管理全国大会事務局 松久采加 Tel. 050-1742-6007 sq-zenkoku@jsa.or.jp
15～17日	第44回電子材料シンポジウム(奈良)	電子材料シンポジウム運営・実行委員会	富山県立大学 太田優一 Tel. 0766-56-7500 ems44-query@ems.jp.org
15～17日	POWTEX2025 (国際粉体工業展大阪)(大阪)[オンライン開催10月1日～11月14日]	日本粉体工業技術協会	展示会事務局(株)シー・エヌ・ティ 宗 義人 Tel. 03-5297-8855 info2025@powtex.com
20～22日	第33回鉄鋼工学アドバンスセミナー(千葉 5号322頁)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
22,23日	2025年度第2回熱処理技術セミナー(東京およびオンライン開催)	日本熱処理技術協会	事務局 Tel. 03-6661-7167 https://forms.office.com/r/uSvvSJxZjj
27日	第257回西山記念技術講座「カーボンニュートラル社会実現のためのエネルギー材料における科学基盤と開発最前線」(大阪 5号331頁 申込締切9月26日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
27～30日	The 7th International Symposium on Innovative Materials and Processes in Energy Systems (IMPRES2025)(宮城)	化学工学会	IMPRES2025実行委員会 impres2025@grp.tohoku.ac.jp
30,31日	第61回X線分析討論会(茨城)	日本分析化学会 X線分析研究懇談会	茨城大学大学院理工学研究科 佐藤成男 Tel. 090-9538-0917 xbun61@gmail.com
2025年11月			
1,2日	第68回自動制御連合講演会(愛知)	日本機械学会	上野晃太 Tel. 03-4335-7622 ueno@jsme.or.jp
3～6日	第2回JSME機械材料・材料加工国際会議2025(グアム、米国)	日本機械学会	https://j-ppf2.jp/jsmempd/ Tel. 03-4335-7615 icmpconf2025@jsme.or.jp
4～7日	国際AEシンポジウム(IIIAE2025)(愛知)	日本非破壊検査協会	八十嶋修平 Tel. 03-5609-4015 yasoshima@jsndi.or.jp
10～13日	M&M2025 材料力学カンファレンス(熊本)	日本機械学会	熊本大学大学院先端科学研究部 森田康之 Tel. 096-342-3777 mmdconf25@jsme.or.jp
12～14日	EcoDesign2025 (第14回 環境調和型設計とインバースマニファクチャリングに関する国際シンポジウム)(東京)	エコデザイン学会連合	EcoDesign2025事務局 Tel. 03-5286-2147 ecodesign2025_secretariat@ecodenet.com
17日	第258回西山記念技術講座「カーボンニュートラル社会実現のためのエネルギー材料における科学基盤と開発最前線」(東京およびオンライン開催 5号331頁 申込締切9月26日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
17～19日	修士・博士学生向け「第19回学生鉄鋼セミナー」材料コース(千葉 5号326頁 申込締切7月31日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
20～21日	鉄鋼工学セミナー「材質制御専科」(東京 本号504頁 申込締切10月17日)	日本鉄鋼協会	(株)神戸製鋼所 柴田航佑 shibata.kosuke@kobelco.com
25～27日	第51回固体イオニクス討論会(東京)	日本固体イオニクス学会	実行委員会 山田淳夫 Tel. 03-5841-0881 ssij51-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp
26日	第76回白石記念講座「鉄鋼業への貢献が期待されるCCUS技術(1) -CO ₂ 分離回収・炭素循環技術-」(東京およびオンライン開催 5号333頁 申込締切10月24日)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
27,28日	シンポジウム「先進自動車製造技術における接合技術 2025」(JAAA2025)(東京)	溶接学会	溶接学会事務局 Tel. 03-5825-4073 s_kogure@tt.rim.or.jp

	行事(開催地/詳細掲載号および頁)	主催者	問合せ・連絡先
27, 28日	第63回高温強度シンポジウム(山口)	日本材料学会	増永千春 Tel. 075-761-5321 jimuj@office.jsms.jp
28日	第118回レアメタル研究会(東京およびオンライン開催)	東京大学生産技術研究所 岡部 徹	岡部研究室 宮崎智子 Tel. 03-5452-6314 tmiya@iis.u-tokyo.ac.jp
27~29日	Techno-Ocean 2025(兵庫)	Techno-Ocean 2025実行委員会	事務局 中西・笹井 Tel. 078-303-0029 techno-ocean@kcva.or.jp
2025年12月			
1日	2025年度粉末冶金基礎講座(京都およびオンライン開催)	粉体粉末冶金協会	Tel. 075-721-3650 info@jspm.or.jp
2日	2025年度粉末冶金実用講座(京都およびオンライン開催)	粉体粉末冶金協会	Tel. 075-721-3650 info@jspm.or.jp
12日	第63回高分子と水に関する討論会(東京)	高分子学会	杉本伊知郎 Tel. 03-5540-3770 sugimoto@spsj.or.jp
2026年1月			
9日	第119回レアメタル研究会(東京)	東京大学生産技術研究所 岡部 徹	岡部研究室 宮崎智子 Tel. 03-5452-6314 tmiya@iis.u-tokyo.ac.jp
2026年2月			
28日	2025年度高校・高専生対象授業等への補助事業の募集締切(4号239頁)	日本鉄鋼協会	育成グループ educact@isij.or.jp
2026年3月			
9日	第120回レアメタル研究会(東京およびオンライン開催)	東京大学生産技術研究所 岡部 徹	岡部研究室 宮崎智子 Tel. 03-5452-6314 tmiya@iis.u-tokyo.ac.jp
2026年4月			
30日	[ISIJ International] 2026年11月特集号「Innovative evaluation techniques for hydrogen entry and hydrogen trapping (水素侵入と水素捕捉に関する革新的評価技術)」原稿募集締切(1号55頁)	日本鉄鋼協会	北海道大学 大学院工学研究院 准教授 伏見公志 Tel. 011-706-6737 kfushimi@eng.hokudai.ac.jp
2026年9月			
16~19日	2026国際ウエルディングショー(東京)	日本溶接協会、産報出版(株)	参報出版(株) 2026国際ウエルディングショー事務局 Tel. 03-3258-6411 weldingshow@sanpo-pub.co.jp
2026年11月			
1~6日	11th International Symposium on Lead and Zinc Processing (Lead-Zinc 2026) 第11回鉛-亜鉛製錬に関する国際シンポジウム(宮城)	資源・素材学会	事務局 中川智津子 Tel. 03-3402-0541 lead-zinc2026@mmij.or.jp

総合

日本鉄鋼協会 研究助成(2026年度助成開始)の募集について

日本鉄鋼協会では下記の研究助成につきまして、2025年7月上旬より募集を開始いたします。詳細につきましては、本会ホームページをご確認ください。

- ①研究会Ⅰ・研究会Ⅱ(公募締切:8月29日(金))
<https://www.isij.or.jp/subcommittee/promotion.html#research>
- ②第35回鉄鋼研究振興助成(公募締切:8月18日(月))
<https://www.isij.or.jp/subcommittee/promotion.html#promotion>
- ③第5回鉄鋼カーボンニュートラル研究助成(公募締切:8月18日(月))
<https://www.isij.or.jp/subcommittee/promotion.html#carbon>

なお、「鉄鋼協会研究プロジェクト」につきましては、2026年度の募集は行いません。

問い合わせ先:

- 研究会Ⅰに関する内容:
(一社)日本鉄鋼協会 学術企画グループ E-mail: academic@isij.or.jp
- 研究会Ⅱ、鉄鋼協会研究プロジェクト、鉄鋼研究振興助成、鉄鋼カーボンニュートラル研究助成に関する内容:
(一社)日本鉄鋼協会 技術企画グループ E-mail: technica@isij.or.jp

イベント情報

鉄鋼工学セミナー「専科」 2025年度受講のご案内

鉄鋼工学セミナー「専科」では、鉄鋼分野の将来を担う熱意のある中堅技術者の人材育成強化を目的とし、高い専門性を有する技術者・研究者を育成するために、より現場に密着した技術に関わる講義や、専門性を高めるような講義を企画しています。2025年度は、「凝固専科」、「精錬プロセス解析専科」、「製鋼熱力学専科」、「強化機構専科」、「水素脆化専科」、「材質制御専科」の6テーマの参加者募集をいたします。このうち今回は、下記6テーマにつきまして開催日順に皆様にお知らせ申し上げます。

以下の案内を参照され、奮ってご参加下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。

[1]「凝固専科」受講のご案内

1. 期日：2025年8月28日（木）13：00～29日（金）12：00

2. 会場：ウインクあいち

〒450-0002 名古屋市中村区名駅4-4-38

TEL：052-571-6131 FAX：052-571-6132

※地図をご参照下さい。https://www.winc-aichi.jp/access/

3. 講義の概略：

鉄鋼の連続铸造や重力铸造等の凝固現象について、基礎から応用までを解説する。最も基礎となる平衡状態図からスタートし、伝熱、溶質の再分配、凝固組織形成機構、共晶凝固・包晶凝固などを詳述する。特に実操業において遭遇する铸造トラブルや品質欠陥と凝固との関連の理解を深めることを目的として、講義と演習を並行して進めていく。

<講義目次>

(1) 平衡状態図	(5) 固液界面の形態
(2) 核生成	(6) 多相凝固
(3) 伝熱	(7) 演習等
(4) 溶質の再分配	

4. プログラム概略：

8/28（木）13:00 集合

13:00～18:00 講義

18:00～20:00 懇親会

(状況により中止する場合があります。)

8/29（金）9:00～12:00 講義

アンケート収集、解散

(希望者は各自昼食後、原田先生 研究室見学)

13:30～15:00 研究室見学

5. 講師：原田 寛（名古屋大学教授）

6. 幹事：外石圭吾（JFEスチール（株）：本コースの円滑な運営のための世話役）

7. 募集定員：10～20名（定員オーバーの場合や参加資格を満たさない場合はお断りすることがあります。）

8. 参加資格：原則として、国内に鉄鋼生産設備を有し、生産割合分担金等の維持会費を納めている法人に属する日本鉄鋼協会個人正会員

※上記以外については、応募状況も踏まえ、鉄鋼工学セミナー WGによる承認が得られた場合、参加可能

9. 費用（税込）：受講料 26,000円

懇親会費 5,000円程度

※受講料は事前カード決済になります。申込締切後、事務局より決済に関するご連絡を差し上げますので、支払い期日までにお手続き下さい。領収証は当日お渡しします。

※懇親会参加費用は、当日現金支払でお願い致します。領収書を発行いたします。

※会場までの交通手段および宿泊は各自でご手配ください。

10. 申込締切日：2025年8月8日（金）期日厳守

※キャンセルは2025年8月20日（水）までをお願いいたします。

※お支払い後のキャンセルは受け付けません（参加者変更についてはご相談下さい）

11. 申込方法：本会Webサイト上の申込フォームに入力し、送信して下さい。

※鉄鋼工学セミナー「凝固専科」：https://isij.or.jp/event/event2025/senka2025-1.html

12. 問合せ先（幹事）：JFEスチール（株）スチール研究所 製鋼研究部 外石圭吾

TEL: 084-945-3615 / E-mail: k-toishi@jfe-steel.co.jp

〒721-8510 福山市鋼管町 1

[2]「精錬プロセス解析専科」受講のご案内

1. 期日：2025年9月1日（月）13：00～2日（火）12：00

2. 開催方法：日本鉄鋼協会 第1・2会議室

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館5階 TEL.03-3669-5933

※地図をご参照下さい。https://www.tekko-kaikan.co.jp/publics/index/

3. 講義の概略：

日本の鉄鋼業は高級鋼の製造で国際競争力を維持強化する戦略を打ち出している。この戦略を支えるには精錬プロセスの向上が不可欠である。精錬とは、溶鋼を様々な組成、温度に精度良く、かつ、効率的に造り分けるプロセスであるが、変動要因が多岐に

渡るためバラツキが大きいという欠点を持っている。これを改善するには、プロセスの本質を平衡だけでなく速度論を含めて把握する必要がある。

本専科ではこれから研究開発の中核になる世代の若手研究者を対象に、精錬プロセス解析方法について説明する。内容は、まず速度論による各反応の原理を理解し、次いで上吹き底吹き等の要素技術のモデル化について説明し、最後に実際のプロセス解析事例を紹介する。

<講義目次>

1. 冶金反応	2. 要素技術の指標とモデル	3. プロセス解析
1.1 転炉脱炭反応	2.1 上吹きジェット	3.1 溶銑脱磷プロセス
1.2 真空下での脱炭反応	2.2 ガス吹き込み	3.2 転炉プロセス
1.3 スラグ・メタル反応	2.3 攪拌混合	3.3 真空脱炭プロセス
1.4 ガス・メタル反応	2.4 粉体インジェクションとエマルジョン	3.4 インジェクション脱磷・脱珪プロセス
	2.5 物質移動係数	3.5 脱硫プロセス
	2.6 固体の溶解	

4. プログラム概略:

9/1 (月) 13:00 集合	9/2 (火) 9:00 ~ 12:00 講義
13:00 ~ 18:00 講義	※アンケート収集後、解散
18:30 ~ 20:30 意見交換会	

5. 講師: 樋口善彦 (産業技術短期大学教授)

6. 幹事: 太田光彦 (日本製鉄: 本コースの円滑な運営のための世話役)

7. 募集定員: 10 ~ 20名 (定員を超えた場合は、先着順とさせていただきます。)

8. 参加資格: 国内に鉄鋼生産設備を有し、生産割合分担金等の維持会費を納めている法人に属する日本鉄鋼協会個人正会員
 ※上記以外については、応募状況も踏まえ、鉄鋼工学セミナー WGによる承認が得られた場合、参加可能

9. 費用 (税込): 受講料 26,000円

意見交換会費 5,000円 (予定)

※受講料は事前カード決済になります。申込締切後、事務局より決済に関するご連絡を差し上げますので、支払い期日までにお手続き下さい。領収証は当日お渡しします。

※意見交換会参加費用は、当日現金支払でお願い致します。領収書を発行いたします。

※会場までの交通手段および宿泊は各自でご手配ください。

10. 申込締切日: 2025年8月4日 (月) 期日厳守

※キャンセルは2025年8月22日 (金) までをお願いいたします。

※お支払い後のキャンセルは受け付けません (参加者変更についてはご相談下さい)

11. 申込方法: 本会Webサイト上の申込フォームに入力し、送信して下さい。

※鉄鋼工学セミナー「精錬プロセス解析専科」: <https://isij.or.jp/event/event2025/senka2025-2.html>

12. 問合せ先 (幹事): 日本製鉄 (株) 技術開発本部 プロセス研究所 製鋼研究部 主幹研究員 太田光彦

TEL. 070-4334-3811 E-mail: ohta.2hx.mitsuhiko@jp.nipponsteel.com

〒314-0255 茨城県神栖市砂山16-1

[3] 「水素脆化専科」受講のご案内

1. 期日: 2025年9月4日 (木) 13:00 ~ 5日 (金) 12:30

2. 会場: オンライン開催 (使用システム: Zoom)

※今回は講義のみで、懇親会は行いません。

3. 講義の概略:

環境問題を背景とした輸送機器の軽量化に伴う材料の高強度化、および水素エネルギー社会構築に向けた水素ガス環境での材料の使用などにおいて、鉄鋼材料の水素脆化に対する安全性・信頼性の確立は重要かつ急務の課題である。本専科では、水素脆化の研究に必須な「金属と水素の物理化学的性質」の基礎を理解した後、実務として必要な「水素添加」、「水素分析」、「水素脆化評価」についても理解を深める。また、水素脆化に関する過去から最新の研究、国際的な動向を整理し、平易に解説する。

<講義目次>

1. はじめに (水素脆性とは)	5. 水素脆化評価方法
2. 金属と水素の物理化学的性質の基礎	・ 定荷重、低ひずみ速度試験の特徴と注意点
・ 金属 (bcc, fcc, hcp) 中の水素の固溶	6. 水素脆性破壊の特徴
・ 金属表面での水素の吸着、侵入過程	・ 環境因子 (温度、ひずみ速度、水素量) の影響
・ 金属 (bcc, fcc, hcp) 中の水素拡散	・ 材料因子 (化学成分、強度、組織) の影響
・ 金属中の水素トラップ	・ 水素存在状態と水素脆性破壊
3. 水素添加方法	・ 破面、破壊の潜伏期・き裂発生・進展過程の解析
・ 各種水素添加方法 (電解、浸漬、水素ガス暴露) の特徴と注意点	7. 水素脆性機構
4. 水素分析方法	・ 各種機構 (内圧説、格子脆化説、局部変形助長説、空孔凝集説) の基本概念
・ 昇温脱離法 (GC,QMS)、低温昇温脱離法の特徴と注意点	8. 金属中の水素存在状態と水素脆化に関する最近の研究
・ 水素トラップサイト (原子空孔、転位、結晶粒界、析出物等) の分離	

4. プログラム概略：

9/4 (木) 13:00 ~ 18:00 講義
9/5 (金) 9:00 ~ 12:30 講義 集合写真撮影、アンケート収集後、解散
※テキストは8月下旬に送付します。

5. 講師：高井健一（上智大学教授）

6. 幹事：大村朋彦（日本製鉄：本コースの円滑な運営のための世話役）

7. 募集定員：10 ~ 20名（定員オーバーの場合や参加資格を満たさない場合はお断りすることがあります。）

8. 参加資格：国内に鉄鋼生産設備を有し、生産割合分担金等の維持会費を納めている法人に属する日本鉄鋼協会個人正会員
※上記以外については、応募状況も踏まえ、鉄鋼工学セミナー WGによる承認が得られた場合、参加可能

9. 費用（税込）：受講料 26,000円

※受講料は事前カード決済になります。申込締切後、事務局より決済に関するご連絡を差し上げますので、支払い期日までにお手続き下さい。

※領収証は、実施終了後、修了証書と一緒に事務局より郵送致します。

10. 申込締切日：2025年8月6日（水）期日厳守

※キャンセルは2025年8月22日（金）までをお願いいたします。

※お支払い後のキャンセルは受け付けません（参加者変更についてはご相談下さい）

11. 申込方法：本会Webサイト上の申込フォームに入力し、送信して下さい。

※鉄鋼工学セミナー「水素脆化専科」：<https://isij.or.jp/event/event2025/senka2025-5.html>12. 問合せ先（幹事）：日本製鉄（株）技術開発本部 鉄鋼研究所 主席研究員 リーディングリサーチャー 大村朋彦
TEL. 080-2155-0790 / E-mail: ohmura.en4.tomohiko@jp.nipponsteel.com
〒293-8511 富津市新富20-1

【4】「製鋼熱力学専科」受講のご案内

1. 期日：2025年9月25日（木）10：00 ~ 26日（金）12：00

2. 会場：キャンパスプラザ京都 第4講習室（状況によりオンライン開催に変更する場合があります）

〒600-8216 京都府京都市下京区西洞院通塩小路下る東塩小路 939

※地図をご参照下さい。<https://www.consortium.or.jp/about-cp-kyoto/access>

3. 講義の概略：

日本の鉄鋼業が国際競争力を維持していくためには、鋼の成分や介在物の量を決定づける製鋼プロセスにおいて、高度で厳格な制御を追い求める必要がある。目的とする鋼材品質に到達するために、速度論とともに熱力学情報の重要性は言うまでもない。また、原料劣質化やカーボンニュートラルに呼応して新規なプロセスを計画・立案する際には、そのプロセスが成立するかどうかを熱力学的に評価し、技術の妥当性を確認する必要がある。

本専科では、これから技術開発の中核になる世代の若手研究者を対象に、熱力学を駆使するスキルを高めることによって、製鋼プロセスにおけるデータの整理や考察を自分自身でできるようになることを目標とする。講義では、使用頻度の高い熱力学の学理を概説した後に、製鋼プロセスの各種工程における熱力学を利用した代表的な解析事例をとりあげ、具体的な数値を使って平衡値などの計算方法について演習を交えて解説する。

<講義目次>

(1) 熱力学諸量	(6) 脱リン（溶銑、溶鋼）
(2) 脱炭、脱窒	(7) トランプエレメント
(3) 脱酸平衡	(8) 高合金系
(4) 複合脱酸	(9) 酸素センサー
(5) 脱硫（溶銑、溶鋼）	

演習を中心に行います。ノートパソコンの持参をお願いします。

4. プログラム概略：

9/25 (木) 10:00 集合
10:00 ~ 10:05 事務連絡
10:05 ~ 18:00 講義（途中昼食休憩あり）
18:30 ~ 20:00 意見交換会（状況により中止する場合あり）

9/26 (金) 9:00 ~ 12:00 講義
アンケート収集後、解散

5. 講師：内田祐一（日本工業大学 基幹工学部 教授）

6. 幹事：吉田裕典（JFEスチール：本コースの円滑な運営のための世話役）

7. 募集定員：10 ~ 15名（定員オーバーの場合や参加資格を満たさない場合はお断りすることがあります。）

8. 参加資格：国内に鉄鋼生産設備を有し、生産割合分担金等の維持会費を納めている法人に属する日本鉄鋼協会個人正会員
※上記以外については、応募状況も踏まえ、鉄鋼工学セミナー WGによる承認が得られた場合、参加可能

9. 費用（税込）：受講料 26,000円

意見交換会参加費 5,000円

※受講料は事前カード決済になります。申込締切後、事務局より決済に関するご連絡を差し上げますので、支払い期日までにお手続き下さい。領収証は当日お渡しします。

※意見交換会参加費用は、当日現金支払をお願い致します。領収書を発行いたします。

※会場までの交通手段および宿泊は各自でご手配ください。

10. 申込締切日：2025年8月25日（月）期日厳守

※キャンセルは2025年9月15日（月）までをお願いいたします。

※お支払い後のキャンセルは受け付けません（参加者変更についてはご相談下さい）

11. 申込方法：本会Webサイト上の申込フォームに入力し、送信して下さい。

※鉄鋼工学セミナー「製鋼熱力学専科」：<https://isij.or.jp/event/event2025/senka2025-3.html>

12. 問合せ先（幹事）：JFEスチール（株）スチール研究所 製鋼研究部 吉田裕典

TEL：084-945-3983 / E-mail：hi-yoshida@jfe-steel.co.jp

〒721-8510 広島県福山市鋼管町1

[5]「強化機構専科」受講のご案内（九州大学 鉄鋼リサーチセンター 共催）

1. 期日：2025年9月30日（火）13：00～10月1日（水）17：00

2. 会場：九州大学 鉄鋼リサーチセンター セミナー室

〒819-0395 福岡市西区元岡744（九州大学 伊都キャンパス EN40棟）

Tel. 092-802-2982

※地図をご参照下さい。<https://rcs.kyushu-u.ac.jp/access>

3. 講義の概略：

金属の変形機構や強化原理、ならびに基本的な強化機構である固溶強化、転位強化、粒子分散強化、結晶粒微細化強化について、転位論に基づいた理論的な解説を行う。具体的には、鉄鋼材料を対象として、固溶強化に関する溶質元素の濃度依存性、転位強化に関するBailey-Hirsch則、粒子分散強化におけるOrowan則、結晶粒微細化強化におけるHall-Petch 則などを理論的に導出し、実験結果との対応を紹介しながら、各強化機構による強化限界や強化機構間の相関則などについて解説する。

<講義目次>

1. 強度の評価方法	8. 転位強化（Bailey-Hirschの式、限界転位密度、強化限界）
2. 金属結合と塑性変形	9. 粒子分散強化（Orowanモデル、強化限界）
3. 転位の運動とマクロな塑性ひずみの関係	10. 結晶粒微細化強化（多結晶金属の降伏、Hall-Petchの式、強化限界）
4. 金属のすべり変形に関する基礎知識（すべり系とTaylor因子）	11. 各種強化機構間の相関性
5. マクロなせん断応力と転位を動かす力	12. 複相鋼の組織と降伏強度
6. 材料の強化原理（転位のピン止め強化とPile-up強化）	
7. 固溶強化（Fleisherの式）	

4. プログラム概略：

9/30（火）12:30～ 受付開始	10/1（水）9:00～11:30 講義
（あまり早く到着されないようご注意ください）	11:30～12:30 昼食休憩（各自、会場周辺にて）
13:00までに集合	12:30～17:00 講義
13:15～18:15 講義	アンケート収集後、解散
19:00～21:00 夕食・懇親会（希望者のみ、当日案内予定）	

※講義では簡単な計算の演習を予定していますので、表計算ソフト（Excelなど）がインストールされたパソコン、または関数電卓をご持参ください。

※平服でご参加ください。

5. 講師：高木節雄（九州大学名誉教授）

6. 幹事：弘中諭（日本製鉄：本コースの円滑な運営のための世話役）

7. 募集定員：10～20名（定員オーバーの場合や参加資格を満たさない場合はお断りすることがあります。）

8. 参加資格：国内に鉄鋼生産設備を有し、生産割合分担金等の維持会費を納めている法人に属する日本鉄鋼協会個人正会員

※上記以外については、応募状況も踏まえ、鉄鋼工学セミナー WGによる承認が得られた場合、参加可能

9. 費用（税込）：受講料 26,000円

懇親会費 5,000円程度

※受講料は事前カード決済になります。申込締切後、事務局より決済に関するご連絡を差し上げますので、支払い期日までにお手続き下さい。領収証は当日お渡しします。

※懇親会参加費用は、当日現金支払をお願い致します。領収書を発行いたします。

※会場までの交通手段および宿泊は各自でご手配ください。

10. 申込締切日：2025年8月29日（金）期日厳守

※キャンセルは2025年9月19日（金）までをお願いいたします。

※お支払い後のキャンセルは受け付けません（参加者変更についてはご相談下さい）

11. 申込方法：本会Webサイト上の申込フォームに入力し、送信して下さい。

※鉄鋼工学セミナー「強化機構専科」：<https://isij.or.jp/event/event2025/senka2025-4.html>

12. 問合せ先（幹事）：日本製鉄（株）技術開発本部 鉄鋼研究所 鋼材ソリューション研究第一部 弘中諭

TEL：070-7548-7238 / E-mail：hironaka.r28.satoshi@jp.nipponsteel.com

〒293-8511 千葉県富津市新富20-1

13. その他：状況によっては、開催方法をオンラインに変更する可能性があります。申し込みに先立ってご了承ください。

[6]「材質制御専科」受講のご案内

1. 期日：2025年11月20日（木）13：00～21日（金）13：00

2. 会場：日本鉄鋼協会 第1・2会議室

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館5階 TEL.03-3669-5933

※地図をご参照下さい。 <https://www.tekko-kaikan.co.jp/publics/index/>

3. 講義の概略：

鉄鋼材料は様々な市場で利用され、我々の生活を支えている。第2次世界大戦後急激な需要の伸びに呼応して生産量を伸ばした鉄鋼業であるが、オイルショックを起点としてその生産量はほぼ横ばい状況である。しかしながら、製造される製品自体は大きな進化を遂げ、国内の各種製造業の国際競争力強化に貢献している。新しい、高機能な鉄鋼材料の開発と実用化、これこそが「材質制御」そのものである。鉄鋼材料へ要求される特性は利用される市場環境によって大きく異なる。本専科では、特に自動車用薄鋼板を念頭に置きながら、強度と塑性変形能に焦点を当て、主に低合金鋼のマイクロ組織制御と材質制御技術について、最近の進歩も含めて説明したい。基礎的な内容は当然のことながらすべての鉄鋼材料に適用可能である。目的の性質上、計算によって定量化を試みる必要がある。受講者にはExcel等が利用可能なPCの準備をお願いしたい。可能でない場合は関数計算機を持参いただきたい。

<講義目次>

1. 応力-ひずみ曲線と支配要因

応力-ひずみ曲線は材料の機械的性質を表す最も基本的な特性である。応力-ひずみ曲線から理解できる材料の特性（材質）とその支配因子を把握し、マイクロ組織制御の重要性を理解する。この中で、材料の強化方法についても理解を進める。また、複合組織鋼における応力-ひずみ曲線の表現方法についても解説する。

2. 実際の製造工程で行われる材質制御

実際の鉄鋼製品は製鉄・製鋼工程から熱延・冷延・熱処理工程と非常に足の長い工程で製造される。各種工程は、商品価値を決定する目的でその詳細が設計されているが、材質制御の観点でも重要な役割を果たしている。ここでは材質制御の観点からみた製造工程の特徴を理解したい。

3. 熱力学と結晶学

相変態や析出現象は熱力学的な法則に則っていると理解されている。ここでは、最小限度の熱力学の知識を用いて、どのようにマイクロ組織形成過程を理解することができるかを解説すると共に、実務でも利用可能な結晶学の超基礎的な理解を試みる。

4. 熱間加工によるマイクロ組織制御

殆んど全ての鉄鋼材料は熱間加工工程を通過する。本質的には、熱間加工は所望の形状を達成するための工程

ではあるが、同時に、「鍛錬」を行う工程とも理解できる。この熱間加工工程でのマイクロ組織変化について、従来知見と最近の新しいアプローチについて説明したい。

5. 相変態によるマイクロ組織制御

鉄鋼材料の最大の特徴は、比較的低温での結晶構造の変化と炭素の役割である。この特徴は鉄鋼材料における相変態挙動と強く関連している。鉄鋼材料の主たる相変態生成物である、フェライト、パーライト、ベイナイト及びマルテンサイトの生成挙動について、その機構の理解と定量的な予測方法について解説する。また、簡単な仮定に基づいた、平衡温度や界面移動速度の計算を実際に行ってもらおう。

6. 析出物による材質制御

析出現象は、アルミなどの相変態を利用できない合金において特徴的に進歩した技術ではあるが、鉄鋼材料においても、様々な特性を向上させるために非常に重要な役割を演じている。ここでは、比較的単純な過飽和固溶体からの析出現象を対象として、その制御技術の基本的な理解を進めたい。

7. ミクロ組織制御の妙技

これまで述べた各種マイクロ組織制御が社会に受け入れられた例を述べて、その妙技についていくつかの例を説明したい。

4. プログラム概略：

11/20（木）13:00集合	11/21（金）9:00～13:00 講義
13:10～18:00 講義	集合写真撮影、アンケート収集後、解散
18:30～20:30 意見交換会	

※平服でご参加ください。

5. 講師：高橋 学（九州大学教授）

6. 幹事：柴田航佑（神戸製鋼所：本コースの円滑な運営のための世話役）

7. 募集定員：10～20名（定員オーバーの場合や参加資格を満たさない場合はお断りすることがあります。）

8. 参加資格：国内に鉄鋼生産設備を有し、生産割合分担金等の維持会費を納めている法人に属する日本鉄鋼協会個人正会員

※上記以外については、応募状況も踏まえ、鉄鋼工学セミナー WG による承認が得られた場合、参加可能

9. 費用（税込）：受講料 26,000円

意見交換会参加費 5,000円

※受講料は事前カード決済になります。申込締切後、事務局より決済に関するご連絡を差し上げますので、支払い期日までにお手続き下さい。領収証は当日お渡しします。

※意見交換会参加費用は、当日現金支払をお願い致します。領収書を発行いたします。

※会場までの交通手段および宿泊は各自でご手配ください。

10. 申込締切日：2025年10月17日（金）期日厳守

※キャンセルは2025年11月10日（月）までをお願いいたします。

※お支払い後のキャンセルは受け付けません（参加者変更についてはご相談下さい）

11. 申込方法：本会Webサイト上の申込フォームに入力し、送信して下さい。

※鉄鋼工学セミナー「材質制御専科」：<https://isij.or.jp/event/event2025/senka2025-6.html>

12. 問合せ先（幹事）：（株）神戸製鋼所 技術開発本部 材料研究所 材質制御研究室 柴田航佑

〒651-2271神戸市西区高塚台 1-5-5 TEL：078-992-5503

E-mail：shibata.kosuke@kobelco.com

ブックレビュー

分析化学の基本操作
器具選び・試料処理・データ整理
上本道久 著
丸善 2024年8月発行
A5版 202頁 3,520円(税込み)
ISBN 978-4-621-30998-8 C3043

研究室では、化学分析の一環としてSEM-EDSが日常的に使用されている。しかし、バルク試料の正確な化学組成を求めたい場合には、分析化学に基づく計測のほうが、より信頼性の高い結果を得ることができる。

本書は、そのような正確な化学分析を行うために欠かせない基本操作をまとめたものである。器具や試薬の使用法、操作手順、分析結果の信頼性など、ごく基本的で当然とも思える内容について、図を多用して平易に解説している。

しかしながら、実際に学生などの若手に化学分析を任せようとする、彼らが習得しているのは主に分析機器の操作に関する知識であり、化学分析の基本的な方法については基礎からの指導が必要となる。機器分析の発展により、それをいかに使いこなすかが重要なス

キルとなった一方で、化学分析の基礎操作は、もはや誰もができるものではなくなってしまった感がある。

かつては分析に精通した技術者が存在し、本書に記された内容を直接指導し、それを「知っていて当然のこと」として扱っていた。JISハンドブック等に基づく分析も日常的に行われていた。しかしながら、現在ではこれらの本を参照し、実際に分析を行える学生がどれほどいるかを考えると、このような技術の伝承が喫緊の課題であることが明らかとなる。

本書は、初心者が化学分析を行うにあたって当然知っておくべき事項を、図表を通じて直感的に理解できるように構成されており、技術を確実に伝承するものである。

(東北大学 多元物質科学研究所 植田 滋)

【訂正とお詫び】

本誌Vol.30 No.6 冊子版 掲載記事に誤りがございました。訂正してお詫びします。

入門講座 鉄鋼リサイクル入門-3

日本鉄鋼リサイクルの歴史の変遷 (後編) —新リサイクル法からカーボンニュートラルまで

p.353 表1 番号5 鳥取県の「廃止年月日」(誤) 1952年7月8日 (正) 2005年12月26日

電子版は、修正済みの記事に差し替えて掲載しております。

次号目次案内

* 定期刊行物の掲載記事及び題目は変更になる場合があります。

つらむ Vol.30 (2025) No.8 掲載記事

Techno Scope 米づくりと鉄

特別講演

学術功績賞記念特別講演

鉄鋼研究のデジタル化:鉄鋼の気持ちを悟るツールの一つとして
..... 足立吉隆(名古屋大学)
圧延現象の実験的解明と理論化
..... 宇都宮 裕(大阪大学)

入門講座

環境測定技術入門-2

事業所における臭気の測定と規制について
..... 末永智暢(オオスミ)

躍動

板成形分野の研究開発を通じて
..... 前田康裕(神戸製鋼所)

私の論文

永久強度 — 構造材料に問う、「消えない強さ」の正体 —
..... 小泉隆行(法政大学)

解説

研究会成果報告-46

焼結鉄の多成分カルシウムフェライトの組成・結晶構造・形態と被還元性
..... 林 幸(東京科学大学)

わたしたちのけんきゅうしつ

材料デザインの新展開〜カーボンニュートラルに向けて〜
..... 鈴木悠介(富山大学)
北千住と塑性加工
..... 鮫島 健(東京電機大学)

論文誌「鉄と鋼」「ISIJ International」の次号目次について

論文受理から掲載までの期間短縮により、2024年1号より次号目次は掲載していません。
各号の掲載論文はJ-STAGEでご覧いただきますようお願いいたします。

鉄と鋼 : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/tetsutohagane/-char/ja/>

ISIJ International : <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/isijinternational/-char/ja/>

会員欄

新規入会

JIANG Xiaofang
KIM Seong-bin
MA Zhigang
青木 崇紘
青木 智紀
浅井 颯真
天野 佳正
有村 祐紀
石井 椋太
石田 茜
石戸 隆介
糸井 祐人
伊藤 優
伊藤 稜平
岩井 雄二郎
上田 優斗
植野 真央

上野 裕太郎
漆畑 諒
遠藤 玲央那
大木 裕司
大河内 一輝
太田 尚良
大野 誠尚
岡本 航輝
奥 貴志
小澤 秀人
小野 稜平
檜村 茂
勝見 智紘
桂川 直也
金沢 良
金山 隆幸
兼重 直樹
河原 魁人
亀井 卓哉
河合 永里佳
川村 祥和
菅野 力哉
菊地 勇人
北口 勇一

木村 善洋
久保 勇人
窪田 悠人
栗屋 大樹
小出 理羽
神崎 祥尚
河野 裕紀
小杉 朋己
樹神 洸寿
小林 恵子
小林 創
小山 智紀
齊藤 逸人
榑田 俊也
坂口 颯
坂卷 晃
佐久間 研吾
佐々木 直人
定本 知徳
佐藤 羽
佐藤 美菜
志田 兼人
信太 大節
柴田 涼誠

嶋本 竜也
白井 健一
白石 直人
白沢 尚也
新宅 祐貴
末石 智大
関原 舜仁
瀬戸 大貴
高田 基樹
高橋 一真
高橋 惇郎
大介 和人
瀧本 祐人
竹内 陽平
田中 康太
田中 優也
田村 葵
津田 和呂
土田 聖也
角川 和也
鶴島 正洋
徳川 豊治
徳永 翼

富永 康樹
中西 航
中原 純也
中村 忠暉
中本 敦子
成富 光佑
西 太一朗
西岡 頼我
西原 将弘
丹羽 優斗
野田 悠生
野元 将志
芳賀 柁希
長谷川 涉
畠山 健太郎
濱口 聖士
原田 賢哉
伴 博之
比嘉 諒幸
平石 裕介
平岡 稜馬
平野 貴大
平松 茉莉
福井 翔大

福田 真菜
藤井 一輝
米 雨晨
帆足 幸宏
星野 伸英
堀 勝博
堀江 空太
本田 直太郎
前迫 恒希
前田 佳俊
増田 嵩淳
松尾 賢典
松田 大和
松本 武蔵
水野 楓
水野 拓陽
満田 浩史
南 翔太
南 健瑠
三輪 空司
森 祐太
森末 浩一
森田 博樹
守屋 優樹

安田 周平
安原 宏
柳本 史教
山下 麻衣
山下 雄輝
山田 航平
山谷 優太
山本 哲也
油布 祥吾
横山 隼大
吉田 一紀
米田 康隆
米村 千恵子
LIU Pan
和口 修平

ご冥福をお祈り
申し上げます
田淵 正明

2024年度 一般社団法人日本鉄鋼協会事業報告・収支決算 (2024年3月1日～2025年2月28日) および 2025年度 一般社団法人日本鉄鋼協会事業計画 (2025年3月1日～2026年2月28日)

2025年4月24日に開催された一般社団法人日本鉄鋼協会定時社員総会において、標記報告等が承認されました。以下にその概要をお知らせします。

I. 2024年度一般社団法人日本鉄鋼協会事業報告 ・収支決算 (2024.3.1～2025.2.28)

2024年度は第4期中期計画の3年目の年であり、次のとおり事業活動を展開した。

1. 協会基本活動の活性化

会員数、講演大会発表件数、論文誌への投稿論文数の増大を協会の基本活動として重点を置き実施した。各事業をコロナ禍前の活動水準に回復させ、加えて、第4期中期計画における新規事業、新たな個人会員数増加対策等も進めたが、個人会員数、講演大会発表件数、投稿論文数は、コロナ禍前には戻っていない。

- 1) 2025年2月末時点で、個人会員総数8,003名(前年2月末7,962名)、うち正会員6,477名(前年6,500名)、準会員910名(前年868名)、学生会員408名(前年386名)、外国会員109名(前年110名)、維持会員169社(前年168社)となった。コロナ禍に比べ回復してきたが、2024年に入り、頭打ち傾向が見られる。
- 2) 2024年度の春季講演大会は東京理科大学で、秋季講演大会は大阪大学で開催した。講演大会での研究発表件数については、一般講演・予告S・共同Sは春季229件、秋季244件、討論会は春季3テーマ22件、秋季6テーマ40件であった。参加者数は、春季1,046名、秋季1,085名であった。また学生ポスターセッションの発表は、春季83件、秋季78件であった。
- 3) 論文の状況は、1～12月の合計で、投稿論文数は「鉄と鋼」147件(前年113件)、「ISIJ Int.」367件(前年415件)であった。同様に掲載論文数は「鉄と鋼」127件(前年89件)、「ISIJ Int.」242件(前年230件)であった。2021年度より交付を受けている科研費「国際情報発信強化」事業の遂行、制作期間短縮策の継続推進等を行った。

2. 鉄鋼の学術・技術の活性化(研究会I、II、鉄鋼協会研究プロジェクト、鉄鋼研究振興助成、鉄鋼カーボンニュートラル研究助成等)

- 1) 新規研究として、研究会Iは「高水素高炉用焼結鉄の製造と特性評価」、「鉄鋼に関わるサプライチェーンマネジメント」、「エネルギーチェーンのシステム最適化」の3件、研究会IIは「鉄鋼スラグ中Mnの存在形態解析」、「アークによるスクラップ伝熱・溶解機構」、「圧延の不均一な弾塑性変形現象の解明」の3件を開始した。鉄鋼協会研究プロジェクトは「伸線パライト鋼の特異ラメラ組織発達機構」の1件を開始した。継続研究として、研究会Iは10件、研究会IIは2件、鉄鋼協会研究プロジェクトは2件を実施した。
- 2) 鉄鋼研究振興助成については、2024年度開始テーマとして34件について助成を行った。
- 3) 2022年度から開始した鉄鋼カーボンニュートラル研究助成については、2024年度開始テーマとして15件について助成を行った。

3. 人材育成

- 1) 学生育成事業として、企業経営幹部による大学特別講義を9大学、専務理事による鉄鋼技術特別講義を13大学で実施した。修士・博士向けの学生鉄鋼セミナー3コース(37名参加)、修士向け鉄鋼工学概論セミナー(28名参加)、学部学生向け最先端鉄鋼体験セミナー3製鉄所(56名参加)を実施した。製鉄所見学事業(交通費支給)は、対象を大学学部から高校、高専及び大学全部(大学院を含む)に拡大し、22回(615名参加)実施した。
- 2) 企業人材育成事業は、鉄鋼工学セミナーを那須(165名参加)で、鉄鋼工学セミナー専科は6テーマ(3テーマ対面、1テーマ・ハイブリッド、2テーマWeb)(78名参加)、鉄鋼工学アドバンストセミナーを船橋(23名参加)で実施した。
- 3) 西山記念技術講座は、「今後激変することが予想される鉄源の確保に向けて」を大阪(61名参加)と東京(ハイブリッド、172名参加)で、「最新シミュレーション技術の進歩と鉄鋼業への展開」を大阪(19名参加)と東京(ハイブリッド、48名参加)で開催した。白石記念講座は、「データ駆動型材料開発の最前線とその適用例」を東京(ハイブリッド、72名参加)で開催した。
- 4) 2022年度開始育成事業として、①製鉄所見学交通費支給を高校生・高専生向けに拡充(上記1)参照)、②高校・高専への大学教員出張授業の助成(3校、94名)、③動画教材(高校生・高専生向け動画教材、動画ライブラリー)の完成・HP公開・Blu-ray/DVD無償提供等、④会員向けWeb講演会(鉄鋼協会Web講演会(3回、798名)、Web講演会～鉄鋼技術最前線シリーズ～(4回、1,511名)、Web講座～入門講座シリーズ～(オンデマンド配信27件))を実施した。
- 5) JABEE技術者教育プログラム認定制度における「材料および関連の工学分野」の幹事学会として、本分野の中心となって活動した。

4. 学会部門及び生産技術部門における研究調査活動

学会部門の6学術部会においては、各運営委員会(各3回/年)、研究会(上記2.1)参照)、フォーラム(計43)等、生産技術部門の19技術部会においては部会大会(各1～2回/年)や技術検討会等を実施した。

5. 戦略・連携強化

- 1) 日本金属学会と上記1.2)の講演大会を同じ日程・場所で開催し、その中で共同セッションを実施した。
- 2) 日本鉄鋼連盟、鉄鋼スラグ協会、日本鋼構造協会、鉄鋼環境基金と「鉄鋼関連助成事業連絡会」を開催した。
- 3) 鉄鋼カーボンニュートラル検討会議において、2025年度の鉄鋼カーボンニュートラル研究助成受給課題の選考、2022年度、2023年度採択の鉄鋼カーボンニュートラル研究助成受給課題の評価、4WG(水素以外の還元方法に関する討議、異業種連携、鉄スクラップ有効利用、鉄鋼CNと経済成長評価)の検討・活動、関連国際会議への参加・情報発信及び海外動向の情報収集、今後の進め方検討等を実施した。

6. 内外への情報発信力の強化

- 1) 本会Webサイトについて、アクセス統計解析、会報誌「ふえらむ」のダウンロード数等に基づき本会会員が求める情報提供の検討を進めた。
- 2) 第16回日本中国鉄鋼学術会議、第7回国際鉄鋼科学シンポジウム(ISSS2024)、第2回地球環境のための炭素の究極利用技術に関するシンポジウム(CUUTE-2)を開催した。

II. 2024年度決算

貸借対照表

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	226,748,997	276,644,300	△ 49,895,303
未収会費	0	1,144,217	△ 1,144,217
未収金	9,838,350	12,506,213	△ 2,667,863
仮払金	0	129,744	△ 129,744
前払金	10,027,587	11,973,719	△ 1,946,132
立替金	30,472	39,900	△ 9,428
貯蔵品	64,044	0	64,044
棚卸資産	9,657,490	10,007,290	△ 349,800
仕掛品	620,000	0	620,000
流動資産合計	256,986,940	312,445,383	△ 55,458,443
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	11,599,912	11,599,912	0
基本財産合計	11,599,912	11,599,912	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	165,310,596	150,608,828	14,701,768
特別資金	489,009,189	592,222,520	△ 103,213,331
鉄鋼研究振興資金	776,057,483	793,299,851	△ 17,242,368
国際会議支援積立資産	11,667,806	10,706,355	961,451
特定資産合計	1,442,045,074	1,546,837,554	△ 104,792,480
(3) その他固定資産			
什器備品	1,733,852	3,291,284	△ 1,557,432
建物附属設備	641,467	754,667	△ 113,200
ソフトウェア	7,880,039	4,266,447	3,613,592
敷金	8,486,320	8,486,320	0
その他固定資産合計	18,741,678	16,798,718	1,942,960
固定資産合計	1,472,386,664	1,575,236,184	△ 102,849,520
資産合計	1,729,373,604	1,887,681,567	△ 158,307,963
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	14,367,564	109,911,511	△ 95,543,947
未払消費税等	6,262,400	6,220,000	42,400
前受金	99,733,210	98,370,520	1,362,690
預り金	965,341	896,137	69,204
賞与引当金	7,400,000	6,700,000	700,000
流動負債合計	128,728,515	222,098,168	△ 93,369,653
2. 固定負債			
退職給付引当金	165,310,596	150,608,828	14,701,768
固定負債合計	165,310,596	150,608,828	14,701,768
負債合計	294,039,111	372,706,996	△ 78,667,885
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
特別資金	324,030,000	324,030,000	0
鉄鋼研究振興資金	635,000,000	635,000,000	0
指定正味財産合計	959,030,000	959,030,000	0
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(959,030,000)	(959,030,000)	(0)
2. 一般正味財産			
一般正味財産	476,304,493	555,944,571	△ 79,640,078
(うち基本財産への充当額)	(11,599,912)	(11,599,912)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(317,704,478)	(437,198,726)	(△ 119,494,248)
正味財産合計	1,435,334,493	1,514,974,571	△ 79,640,078
負債及び正味財産合計	1,729,373,604	1,887,681,567	△ 158,307,963

実施事業資産は、以下のとおりである。

特別資金	324,030,000
鉄鋼研究振興資金	635,000,000
合計	959,030,000

正味財産増減計算書

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益			
特定資産受取利息	5,336,096	4,693,288	642,808
受取入会金			
受取入会金	337,500	391,500	△ 54,000
受取会費			
受取個人会費	62,636,915	64,262,289	△ 1,625,374
受取維持会費	434,633,750	434,339,582	294,168
事業収益			
受取図書出版料	51,301,822	51,756,211	△ 454,389
受取広告料	8,068,638	6,883,638	1,185,000
受取参加料	55,624,923	36,577,888	19,047,035
受取分担金	976,760	1,082,233	△ 105,473
受取フォーラム活動収益	405,458	773,188	△ 367,730
受取その他事業収益	1,651,477	1,588,838	62,639
受取補助金等			
受取補助金	6,231,800	3,623,000	2,608,800
受取受託金	1,000,000	0	1,000,000
受取寄付金			
受取寄付金	0	500,000	△ 500,000
退職給付引当金戻入額			
退職給付引当金戻入額	0	1,069,615	△ 1,069,615
雑収益			
受取利息	117,216	3,033	114,183
雑収益	138,198	181,052	△ 42,854
経常収益計	628,460,553	607,725,355	20,735,198
(2) 経常費用			
事業費			
給与手当等	136,648,401	130,682,445	5,965,956
退職給付費用	13,084,571	0	13,084,571
福利厚生費	17,747,668	16,538,209	1,209,459
事務所管理費	25,456,628	24,988,218	468,410
研究費	190,181,837	200,727,283	△ 10,545,446
会場・会議費	44,246,041	37,422,540	6,823,501
旅費交通費	52,444,560	50,899,028	1,545,532
通信運搬費	17,045,651	14,987,076	2,058,575
減価償却費	3,122,153	2,715,026	407,127
部会活動費	6,391,513	10,379,551	△ 3,988,038
消耗品費	2,298,769	2,002,428	296,341
印刷製作費	53,194,279	53,459,080	△ 264,801
賃借料	848,868	1,608,270	△ 759,402
表彰・寄贈費	5,138,746	4,207,104	931,642
期首出版物棚卸高	10,007,290	26,834,342	△ 16,827,052
期末出版物棚卸高	△ 9,657,490	△ 28,537,876	18,880,386
期末仕掛品棚卸高	△ 620,000	0	△ 620,000
新聞図書購読費	5,196,687	4,574,461	622,226
諸謝金	16,119,093	11,720,583	4,398,510
租税公課	4,638,083	4,097,753	540,330
フォーラム活動費	11,566,129	12,558,639	△ 992,510
支払負担金	1,772,274	1,830,593	△ 58,319
支払保険料	182,917	159,538	23,379
委託費	35,040,506	28,579,581	6,460,925
手数料	3,687,414	2,784,348	903,066
研修渉外費	155,896	194,957	△ 39,061
臨時備役費	2,159,913	883,397	1,276,516
見学・講演会費	5,758,983	4,732,112	1,026,871
材料等研究会費	4,526,837	3,608,716	918,121
システム費	16,770,882	15,180,548	1,590,334
雑費	190,256	18,038	172,218
事業費計	675,345,355	639,835,988	35,509,367
管理費			
給与手当等	16,889,140	19,011,088	△ 2,121,948
退職給付費用	1,617,197	0	1,617,197
福利厚生費	2,193,545	2,405,914	△ 212,369
事務所管理費	3,146,337	3,635,180	△ 488,843
会場・会議費	708,148	696,669	11,479
旅費交通費	905,242	1,027,989	△ 122,747
通信運搬費	766,953	1,298,506	△ 531,553
減価償却費	385,887	394,971	△ 9,084
消耗品費	247,326	471,454	△ 224,128
印刷製作費	587,449	722,170	△ 134,721
新聞図書購読費	35,954	41,223	△ 5,269
賃借料	104,928	186,956	△ 82,028
租税公課	1,417,902	1,338,016	79,886
支払負担金	193,234	209,216	△ 15,982
委託費	1,541,998	1,422,546	119,452
手数料	439,972	313,956	126,016
研修渉外費	191	24,890	△ 24,699
システム費	1,572,589	1,680,236	△ 107,647
雑費	1,284	0	1,284
管理費計	32,755,276	34,880,980	△ 2,125,704
経常費用計	708,100,631	674,716,968	33,383,663
当期経常増減額	△ 79,640,078	△ 66,991,613	△ 12,648,465
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
棚卸資産除却損	0	18,315,774	△ 18,315,774
固定資産除却損	0	1	△ 1
経常外費用計	0	18,315,775	△ 18,315,775
当期経常外増減額	0	△ 18,315,775	18,315,775
当期一般正味財産増減額	△ 79,640,078	△ 85,307,388	5,667,310
一般正味財産期首残高	555,944,571	641,251,959	△ 85,307,388
一般正味財産期末残高	476,304,493	555,944,571	△ 79,640,078
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	959,030,000	959,030,000	0
指定正味財産期末残高	959,030,000	959,030,000	0
III 正味財産期末残高	1,435,334,493	1,514,974,571	△ 79,640,078

正味財産増減計算書内訳表

科 目	実施事業等会計					小 計	法人会計	内部取引消去	合 計
	講演講習育成事業	研究・調査事業	学術誌刊行事業	表彰事業	共 通				
I 一般正味財産増減の部									
1. 経常増減の部									
(1) 経常収益									
特定資産運用益									
特定資産受取利息	0	0	0	0	5,336,096	5,336,096	0	0	5,336,096
受取入会金	0	0	0	0	0	0	337,500	0	337,500
受取入会金	0	0	0	0	0	0	0	0	0
受取会費	0	0	0	0	50,109,534	50,109,534	12,527,381	0	62,636,915
受取個人会費	0	0	0	0	347,707,000	347,707,000	86,926,750	0	434,633,750
受取維持会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0
事業収益									
受取図書出版料	1,110,393	0	50,191,429	0	0	51,301,822	0	0	51,301,822
受取広告料	0	0	8,068,638	0	0	8,068,638	0	0	8,068,638
受取参加料	53,737,634	1,869,107	18,182	0	0	55,624,923	0	0	55,624,923
受取分租金	487,130	489,630	0	0	0	976,760	0	0	976,760
受取プログラム活動収益	0	405,458	0	0	0	405,458	0	0	405,458
受取その他事業収益	73,037	69,539	1,508,901	0	0	1,651,477	0	0	1,651,477
受取補助金等									
受取補助金	2,106,800	325,000	3,800,000	0	0	6,231,800	0	0	6,231,800
受取受託金	1,000,000	0	0	0	0	1,000,000	0	0	1,000,000
雑収益									
受取利息	0	0	0	0	0	0	117,216	0	117,216
雑収益	0	0	0	0	0	0	138,198	0	138,198
経常収益計	58,514,994	3,158,734	63,587,150	0	403,152,630	528,413,508	100,047,045	0	628,460,553
(2) 経常費用									
事業費									
給与手当等	48,210,785	40,533,908	36,541,933	11,361,775	0	136,648,401	0	0	136,648,401
退職給付費用	4,616,355	3,881,266	3,499,020	1,087,930	0	13,084,571	0	0	13,084,571
福利厚生費	6,261,538	5,264,477	4,746,007	1,475,646	0	17,747,668	0	0	17,747,668
事務所管理費	8,981,329	7,551,181	6,807,502	2,116,616	0	25,456,628	0	0	25,456,628
研究費	0	190,181,837	0	0	0	190,181,837	0	0	190,181,837
会場・会議費	20,989,483	22,030,502	1,220,356	5,700	0	44,246,041	0	0	44,246,041
旅費交通費	32,269,972	16,489,048	3,304,819	380,721	0	52,444,560	0	0	52,444,560
通信運搬費	1,716,070	701,635	14,424,236	203,710	0	17,045,651	0	0	17,045,651
減価償却費	1,101,524	926,122	834,913	259,594	0	3,122,153	0	0	3,122,153
部会活動費	0	6,391,513	0	0	0	6,391,513	0	0	6,391,513
消耗品費	641,912	558,821	980,436	117,600	0	2,298,769	0	0	2,298,769
印刷製作費	5,565,907	1,083,310	46,542,284	2,778	0	53,194,279	0	0	53,194,279
賃借料	299,490	251,799	227,000	70,579	0	848,868	0	0	848,868
表彰・寄贈費	252,174	668,591	477,120	3,740,861	0	5,138,746	0	0	5,138,746
期首出版物棚卸高	0	0	10,007,290	0	0	10,007,290	0	0	10,007,290
期末出版物棚卸高	0	0	△ 9,657,490	0	0	△ 9,657,490	0	0	△ 9,657,490
期末仕掛品棚卸高	0	0	△ 620,000	0	0	△ 620,000	0	0	△ 620,000
新聞図書購読費	102,593	382,155	4,687,763	24,176	0	5,196,687	0	0	5,196,687
租税公課	10,096,699	2,140,434	3,881,960	0	0	16,119,093	0	0	16,119,093
プログラム活動費	1,643,796	1,371,283	1,238,631	384,373	0	4,638,083	0	0	4,638,083
支払負担金	760,436	463,759	418,086	129,993	0	1,772,274	0	0	1,772,274
支払保険料	182,917	0	0	0	0	182,917	0	0	182,917
委託費	17,422,035	1,497,150	15,968,101	153,220	0	35,040,506	0	0	35,040,506
手数料	1,400,177	777,353	1,319,847	190,037	0	3,687,414	0	0	3,687,414
研修渉外費	124,982	30,378	409	127	0	155,896	0	0	155,896
臨時雇役費	2,159,913	0	0	0	0	2,159,913	0	0	2,159,913
見学・講演会費	5,758,983	0	0	0	0	5,758,983	0	0	5,758,983
材料等研究会費	0	4,526,837	0	0	0	4,526,837	0	0	4,526,837
システム費	4,538,995	3,774,187	7,399,786	1,057,914	0	16,770,882	0	0	16,770,882
雑費	3,654	3,072	182,669	861	0	190,256	0	0	190,256
事業費計	175,101,719	323,046,747	154,432,678	22,764,211	0	675,345,355	0	0	675,345,355
管理費									
給与手当等	0	0	0	0	0	0	16,889,140	0	16,889,140
退職給付費用	0	0	0	0	0	0	1,617,197	0	1,617,197
福利厚生費	0	0	0	0	0	0	2,193,545	0	2,193,545
事務所管理費	0	0	0	0	0	0	3,146,337	0	3,146,337
会場・会議費	0	0	0	0	0	0	708,148	0	708,148
旅費交通費	0	0	0	0	0	0	905,242	0	905,242
通信運搬費	0	0	0	0	0	0	766,953	0	766,953
減価償却費	0	0	0	0	0	0	385,887	0	385,887
消耗品費	0	0	0	0	0	0	247,326	0	247,326
印刷製作費	0	0	0	0	0	0	587,449	0	587,449
新聞図書購読費	0	0	0	0	0	0	35,954	0	35,954
賃借料	0	0	0	0	0	0	104,928	0	104,928
租税公課	0	0	0	0	0	0	1,417,902	0	1,417,902
支払負担金	0	0	0	0	0	0	193,234	0	193,234
委託費	0	0	0	0	0	0	1,541,998	0	1,541,998
手数料	0	0	0	0	0	0	439,972	0	439,972
研修渉外費	0	0	0	0	0	0	191	0	191
システム費	0	0	0	0	0	0	1,572,589	0	1,572,589
雑費	0	0	0	0	0	0	1,284	0	1,284
管理費計	0	0	0	0	0	0	32,755,276	0	32,755,276
経常費用計	175,101,719	323,046,747	154,432,678	22,764,211	0	675,345,355	0	0	708,100,631
当期経常増減額	△ 116,586,725	△ 319,888,013	△ 90,845,528	△ 22,764,211	403,152,630	△ 146,931,847	67,291,769	0	△ 79,640,078
2. 経常外増減の部									
(1) 経常外収益									
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用									
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 116,586,725	△ 319,888,013	△ 90,845,528	△ 22,764,211	403,152,630	△ 146,931,847	67,291,769	0	△ 79,640,078
他会計振替額									
他会計振替額	116,586,725	319,888,013	90,845,528	22,764,211	△ 403,152,630	146,931,847	△ 146,931,847	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	△ 79,640,078	0	△ 79,640,078
一般正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	555,944,571	0	555,944,571
一般正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	476,304,493	0	476,304,493
II 指定正味財産増減の部									
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	959,030,000	959,030,000	0	0	959,030,000
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	959,030,000	959,030,000	0	0	959,030,000
III 正味財産期末残高	0	0	0	0	959,030,000	959,030,000	476,304,493	0	1,435,334,493

附属明細書

- 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表の注記に記載している。
- 引当金の明細

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	6,700,000	7,400,000	6,700,000	0	7,400,000
退職給付引当金	150,608,828	14,701,768	0	0	165,310,596

Ⅲ. 2025年度 一般社団法人日本鉄鋼協会事業計画 (2025.3.1 ~ 2026.2.28)

日本経済は、所得の増加、堅調な設備投資を背景に穏やかに成長が継続し、まだ一部に力強さは欠くものの、明るい兆しが見えてきている。一方世界経済は、成長の力強さを欠くなかで、米国新政権による米国ファーストの産業政策による米中対立の先鋭化とそれに伴う世界貿易・経済の混乱など不確定要素はあるものの、世界的な利下げ局面のなか、総じて回復基調を辿るとみられている。

我が国の粗鋼生産量は2024暦年では8,401万トン（前年比3.4%減）、世界粗鋼生産量は18.826億トン（前年比0.8%減）となっている。2025年度の我が国鉄鋼需要は、内外需ともに改善し、前年度から回復することが期待されている。

鉄鋼技術・研究面については、鉄鋼新興国の追い上げは厳しさを増し、生産能力のみならず、品質面、技術面、研究面でも向上が著しい。また、カーボンニュートラルやサーキュラーエコノミーなど国際社会環境の急激な変化、気候変動や頻発する大規模災害に対応できるレジリエントな社会システム構築の必要など、鉄鋼業は多くの重要課題に直面している。

このため、鉄鋼業における革新的な技術発展が不可欠となっており、本会としては、学会部門と生産技術部門の連携をより強化し、鉄鋼の学術・技術をさらに活性化するための活動を進める。

これらを踏まえ、2025年度の本会活動としては、以下の項目等の実施に重点をおいた事業活動を展開する。

具体的な施策

1. 協会基本活動の活性化

- 1) 学会部門、生産技術部門および各委員会等の連携・協調のもと、各種大会、会議、セミナー等をより多くの参加者を得て開催するとともに、各事業の特色に応じWeb講演会などWeb/ハイブリッドの長所を活かした活動も進め、協会基本活動の強化・充実を図り、会員数の維持・増加を図る。
- 2) 第189回春季講演大会は3月8-10日に東京都立大学南大沢キャンパスにて開催、第190回秋季講演大会は9月17-19日に北海道大学にて開催する。講演大会のさらなる活性化を図るとともに収支均衡を目指す。
- 3) 論文誌「鉄と鋼」、「ISIJ Int.」は、完全オープンアクセスの学術誌として、国際的学術レベルの維持・向上を図るとともに収支均衡を目指す。

2. 鉄鋼の学術・技術の活性化

- 1) 学会部門と生産技術部門との連携強化をベースとして、新しい研究課題の発掘・発信を図る。

- 2) 学会部門ではフォーラム活動や研究会の充実、理学等も含めた新たな学術シーズの取り込みを進める。
- 3) 生産技術部門では部会間の情報交流促進を図り各部会活動の活性化に資する。各部会共通的な活動に加え、各部会の状況に応じ若手対象企画、産学連携、海外との交流等の活動を進める。
- 4) 研究会Ⅰを13件（うち新規5件）、研究会Ⅱを3件、鉄鋼協会研究プロジェクト3件（うち新規1件）・FS1件を実施する。鉄鋼研究振興助成を28件、鉄鋼カーボンニュートラル研究助成を10件給付する。

3. 人材育成

- 1) 学生育成事業については、「修士学生向け鉄鋼工学概論セミナー」、「学部学生向け最先端鉄鋼体験セミナー」、「企業経営幹部による大学特別講義」等の実施・更なる充実を図る。また、高校生・高専生対象事業（①製鉄所見学交通費補助事業、②高校・高専生対象授業等への補助事業、③動画教材提供）についてはPR活動を強化する。
- 2) 企業人材育成については、「鉄鋼工学セミナー」「同専科」、「鉄鋼工学アドバンスセミナー」の実施・更なる充実を図る。
- 3) 西山記念技術講座・白石記念講座はニーズを踏まえたタイムリーな企画を進め、内容充実を図る。
- 4) 会員向けWeb講演会は選り抜きの企画に重点化して実施する。
- 5) JABEE（日本技術者教育認定機構）と連携し、高等教育機関等の教育プログラムの改善・向上に貢献する。

4. 戦略・連携強化

日本金属学会等の学術団体との協力を推進する。さらに日本鉄鋼連盟をはじめ、金属系材料研究開発センター、鉄鋼環境基金、鉄鋼スラグ協会、日本鋼構造協会、等の関係団体と研究助成、人材育成等の面での連携を継続・強化する。特に地球温暖化問題については、鉄鋼カーボンニュートラル検討会議下のWG活動や助成事業等を他学会及び他業界との連携を強化し進める。また、産学連携強化の検討を進める。

5. 内外への情報発信力の強化等

- 1) 2025年9月に2025 International Conference for Analysis in Steel Industry（於：徳島）を開催する。
- 2) 会報誌「ふえらむ」について、更なる内容充実を図る。
- 3) 2021年度より5年間の科研費交付を受けている「鉄鋼論文誌の国際競争力強化」の取組継続等により、欧文誌の更なる国際的プレゼンス向上を図る。
- 4) 協会に蓄積する各種研究・技術情報の電子化及び利用を更に推進する。